

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
地理歴史	歴史総合	普通科	1 学年	2 単位	詳述歴史総合（実教出版）	新詳 歴史総合（浜島書店） 詳述歴史総合 徹底整理演習 ノート（実教出版）

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な国民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
----------------	--

評価の観点と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。
小テスト 定期考査	定期考査 発問評価 提出課題	授業態度 発問評価 提出課題

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	歴史の扉	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。 ・中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。 	○ ○	○ ○	○
5	近代化への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身に付けている。 ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用して、近代化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 	○	○ ○	○
6	第1章 近代化への胎動	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解している。 ・18世紀のアジア諸国とヨーロッパ諸国の経済が互いに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角 	○	○	

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		的に考察し、表現している。 ・前近代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			○
7	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	・産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ・産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、欧米諸国の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○
7	第3章 アジアの変容と日本の近代化	・日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○
9	第4章 帝国主義の時代	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○
10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化への問い	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 ・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用して、国際秩序の変化や大衆化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	○	○	○
11	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
		<p>表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 			○
12	第6章 経済危機と第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
1	第3編 グローバル化と私たち グローバル化への問い	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用して、グローバル化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 	○	○	○
2	第7章 冷戦と脱植民地化	<ul style="list-style-type: none"> 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解している。 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 1950～1970年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○
2	第8章 多極化する世界	<ul style="list-style-type: none"> 石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。 アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 1970～80年代の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
3	第9章 グローバル化と現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。 ・ 冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ 1989年以降の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 	○	○	○

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	農業学科 海洋学科 ビジネス学科 生活福祉科	1 学年	2 単位	高等学校 新公共(第一学習社)	新公共ノート(第一学習社) クローズアップ公共 (第一学習社)

学習の到達目標	<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
----------------	---

評価の観点と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
プリント等提出 定期考査	発問評価 提出課題 プリント等提出	授業態度 発問評価 提出課題

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 	○	○	
5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	<ul style="list-style-type: none"> 行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 幸福、正義、公正などに着目して考えている。 倫理的価値の判断において、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向けて人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 公共的な空間における人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○ ○	○
6	第3章 公共的な空間における基本的原理	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。 幸福、正義、公正などに着目して考え、公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して多面的・多角的に考察し、表現している。 公共的な空間における基本的原理について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
6	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任	<ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
7	主題3 司法参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> 司法参加の意義に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 政治分野の国会・内閣のしくみとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
9	第2章 主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権	<ul style="list-style-type: none"> 政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 中学校までに学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 国際社会の特徴と課題について、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
10	主題6 日本の安全保障と防衛 主題7 国際社会の変化と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 日本の安全保障と防衛に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 他教科で学んだ知識もふまえ、経済分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
11	第3章 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観	<ul style="list-style-type: none"> 雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 法分野の基本的な人権とも関連させ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 社会の変化と職業観に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。 	○	○	○
12	主題10 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
1	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障	<ul style="list-style-type: none"> 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 <ul style="list-style-type: none"> 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 少子高齢化・人口減少などの社会背景をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して考えている。 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○

月	学習項目	学習内容および評価規準	知	思	主
2	主題13 経済のグローバル化	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・経済のグローバル化について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○
3	第3編 持続可能な社会づくりの 主体となる私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ内容や課題を解決するための知識を理解している。 ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ・その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理歴史	日本史B	普通科	2・3 (継続)	文系7 理系5	改訂版 詳説日本史 (山川出版社)	最新日本史図表五訂版 (第一学習社) 必携日本史用語 (実教出版)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島で展開した歴史を、諸外国や周縁世界との関係を視野にいれながら理解する。 日本の文化と伝統がどのように育まれてきたかについての認識を深める。 日本人として必要なこれらの知識をふまえて、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる資質を養う。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
I 原始・古代 1 日本文化の あけぼの 2 律令国家の形成 3 貴族政治と 国風文化	原始社会 ヤマト政権の成立 飛鳥時代 律令体制の成立 奈良時代 摂関政治 国風文化	<ul style="list-style-type: none"> 原始時代の日本列島における道具や生活様式の特色や発展について理解する。 国家の形成と律令体制の確立の過程を、東アジア世界との交流に着目しながら理解する。 古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解する。
II 中世 4 中世社会の成立 5 武家社会の成長	鎌倉幕府 執権政治 室町幕府 戦国争乱	<ul style="list-style-type: none"> 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運について理解する。 中世社会の多様な展開や武家・公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽などについて理解する。
III 近世 6 幕藩体制の確立 7 幕藩体制の展開 8 幕藩体制の動揺	織豊政権 幕藩体制 経済の発展 幕政の改革 幕政の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ世界との接触とその影響を理解する。 織豊政権、幕藩体制の特質について理解する。 幕府支配の方針転換とその背景を理解する。 諸産業、文化の発展を理解する。 幕藩体制の動揺と一連の幕府改革の関連を理解する。
IV 近代・現代 9 近代国家の成立 10 二つの世界大戦 とアジア 11 占領下の日本 12 高度成長の時代 13 激動する世界と 日本	明治維新 自由民権運動 条約改正 第一次世界大戦 ワシントン体制 第二次世界大戦 民主化の推進 占領政治の転換 高度経済成長 国際経済体制の変化	<ul style="list-style-type: none"> 開国と幕末動乱および明治維新の考察を深め、経緯について理解する。 自由民権運動から憲法制定、議会開設までの経緯を理解する。 日本の条約改正交渉の経緯を理解する。 日本における資本主義の発展過程を考察する。 第一次世界大戦前後の日本の外交・軍事上の行動を理解する。 政党政治、大正デモクラシーの思潮を理解する。 15年戦争の原因、実態、内外への影響などを考える。 戦後改革の意義を理解する。 冷戦が日本に与えた影響を考える。 日本の戦後発展の経緯を理解する。 現代の日本を取り巻く様々な課題を認識する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できるか。 定期考査の成績をもとに小テスト、平常の学習態度、課題の提出状況を加えて総合的に評価する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

日本史の学習で重要なことは、歴史の流れと因果関係を理解することです。人名や事項・事件名などの歴史用語をただ暗記しようとしても、歴史はなかなか理解できません。なぜそうなるのか、なにが原因なのかを考えることにより、歴史の流れや関連が理解でき、用語も自然に頭に入ってきます。授業では、常に歴史の流れを意識して、臨んでください。

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理歴史	日本史B	普通科	3(継続)	3	改訂版 詳説日本史 (山川出版社)	最新日本史図表(第一学習社) 必携日本史用語(実教出版)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島で展開した歴史を、諸外国や周縁世界との関係を視野にいれながら理解する。 ・日本の文化と伝統がどのように育まれてきたかについての認識を深める。 ・日本人として必要なこれらの知識をふまえて、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる資質を養う。
---------------------	--

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
I 原始・古代 1 日本文化の あけぼの 2 律令国家の形成 3 貴族政治と 国風文化	原始社会 ヤマト政権の成立 飛鳥時代 律令体制の成立 奈良時代 摂関政治 国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ・原始時代の日本列島における道具や生活様式の特徴や発展について理解する。 ・国家の形成と律令体制の確立の過程を、東アジア世界との交流に着目しながら理解する。 ・古代国家の推移と国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解する。
II 中世 4 中世社会の成立 5 武家社会の成長	鎌倉幕府 執権政治 室町幕府 戦国争乱	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運について理解する。 ・中世社会の多様な展開や武家・公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽などについて理解する。
III 近世 6 幕藩体制の確立 7 幕藩体制の展開 8 幕藩体制の動揺	織豊政権 幕藩体制 経済の発展 幕政の改革 幕政の衰退	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ世界との接触とその影響を理解する。 ・織豊政権、幕藩体制の特質について理解する。 ・幕府支配の方針転換とその背景を理解する。 ・諸産業、文化の発展を理解する。 ・幕藩体制の動揺と一連の幕府改革の関連を理解する。
IV 近代・現代 9 近代国家の成立 10 二つの世界大戦 とアジア 11 占領下の日本 12 高度成長の時代 13 激動する世界と 日本	明治維新 自由民権運動 条約改正 第一次世界大戦 ワシントン体制 第二次世界大戦 民主化の推進 占領政治の転換 高度経済成長 国際経済体制の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末動乱および明治維新の考察を深め、経緯について理解する。 ・自由民権運動から憲法制定、議会開設までの経緯を理解する。 ・日本の条約改正交渉の経緯を理解する。 ・日本における資本主義の発展過程を考察する。 ・第一次世界大戦前後の日本の外交・軍事上の行動を理解する。 ・政党政治、大正デモクラシーの思潮を理解する。 ・15年戦争の原因、実態、内外への影響などを考える。 ・戦後改革の意義を理解する。 ・冷戦が日本に与えた影響を考える。 ・日本の戦後発展の経緯を理解する。 ・現代の日本を取り巻く様々な課題を認識する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断できるか。 ・定期考査の成績をもとに小テスト、平常の学習態度、課題の提出状況を加えて総合的に判断する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

日本史の学習で重要なことは、歴史の流れと因果関係を理解することです。人名や事項・事件名などの歴史用語をただ暗記しようとしても、歴史はなかなか理解できません。なぜそうなるのか、なにが原因なのかを考えることにより、歴史の流れや関連が理解でき、用語も自然に頭に入ってきます。授業では、常に歴史の流れを意識して、臨んで下さい。

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理 歴史	地理B	普通科	2・3	文系7 理系5	新詳地理B (帝国) 新詳高等地図 (帝国)	新編地理資料(とうほう) 地理統計 2022(帝国)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
I 地図と地理的技能		<ul style="list-style-type: none"> ・地図から各時代の人々の世界観を捉えるとともに、地図の有用性について考察する。 ・球体である世界を平面として捉えた地図の長所・短所を把握するとともに時差を扱う地理的技能を身につける。 ・適切な地図の選択と、地図を使った地域調査で地域の特性を捉える技能を身につける。
1 地理情報と地図	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の地図 ・地図の種類と利用 	
2 地図の活用と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地理情報の地図化 ・地域調査 	
II 現代世界の系統地理的考察		<ul style="list-style-type: none"> ・世界の地形を営力で分類し、成因の考察とともに、災害と恩恵など人との関わりを考察する。 ・世界の気候について、気候因子と気候要素からその成因を理解し、世界の人々の生活との関係を考察する。 ・世界の環境問題の現状理解とその解決方法や世界各国の取り組みについて理解する。 ・国家間の結びつき、政治や経済的組織について考察する。 ・世界の交通・通信網の発展とその問題点を学ぶ。 ・物や人の国際的流れについて学ぶ。 ・世界の人口問題について現状と課題を理解する。 ・村落・都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解する。 ・衣食住は、自然条件や社会条件によって地域的差異がみられることを理解する。 ・世界の民族問題や領土問題の現状とその要因について理解する。
1 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然地形 ・世界の気候 ・日本の自然の特徴等 	
2 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題 ・世界の農林水産業 ・エネルギー・鉱産資源 ・世界の工業等 	
3 人口、村落・都市	<ul style="list-style-type: none"> ・交通、通信、貿易 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・居住問題 	
4 生活文化、民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・民族と宗教 ・現代の国家 ・民族、領土問題 	
III 現代世界の地誌的考察		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの国や地域の自然環境、歴史、産業、他国との関わりを地誌的に考察する。 ・州・大陸を地誌的にとらえる手法を身につけることで、自然や歴史の共通点を学び、地域特性の差異について理解する。
1 現代世界の地域区分	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分 ・東アジア ・東南～南アジア ・西～中央アジア 	
2 現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・南北アメリカ 	
3 現代世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア 	

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地理の系統的知識と地誌的知識を身に付け、総合的観点から現代世界をとらえることができる。 ・地表面に具現化された事象における、自然と人間との因果関係を多角的に分析し、現代世界における課題の解決方法を考察し、判断する。 ・地形図や地図・景観写真を読みとり、地理事象を理解する。 ・地理的事象のメカニズムや人間との関わりについて関心を持ち、意欲的に課題を追究しようとする。 ・1、2学期の評価は考査の得点と課題提出点、受講状況、発言をもとに100点法で評価する。
-----------------	---

4 学習のアドバイス

地理的視点と技能を身につけましょう。常に「理(ことわり)」を考えることです。なぜ、これが起こるのか、存在するのか、を考えることで、地球規模で起こる様々な問題への理解を深め、解決への道を探ります。新聞やTV等のニュースは、この科目の大切なパートナーです。仲良くしましょう。

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理 歴史	地理B	普通科	3 (継続)	3	新詳地理B (帝国) 新詳高等地図 (帝国)	新編地理資料(とうほう) 地理統計 2021(帝国)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、また歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
Ⅱ 現代世界の系統地理的考察	2 資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> 世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産と消費について、その特色と基礎的知識を得る。 さまざまな工業の特色と立地条件について理解する。 第3次産業の発達を概観し、観光業について知る。 交通網と情報、通信における各国の特徴を把握する。
	3 人口、村落・都市	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の貿易それぞれの現状と課題を考察する。 世界の人口問題について現状と課題を理解する。 村落・都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解する。 衣食住の地域差を、自然条件や社会条件から考察する。
	4 生活文化、民族・宗教	<ul style="list-style-type: none"> 生活文化の地域的差異と画一化について考察する。 民族と宗教の分布概要や宗教の特徴を理解する。 「国家」の概念について理解を深める。 民族や宗教に起因すると言われる対立等を把握する。
	Ⅲ 現代世界の地誌的考察	
Ⅰ 現代世界の地域区分	1 現代世界の地域区分	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの国や地域の自然環境、歴史、産業、他国との関わりを地誌的に考察する。 州・大陸を地誌的にとらえる手法を身につけることで、自然や歴史の共通点を学び、地域特性の差異について理解する。
	2 現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジア中央アジア 北アフリカサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア
	3 現代世界と日本	

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 地理の系統的知識と地誌的知識を身に付け、総合的観点から現代世界をとらえることができる。 地表面に具現化された事象における、自然と人間との因果関係を多角的に分析し、現代世界における課題の解決方法を考察し、判断する。 地形図や地図・景観写真を読みとり、地理事象を理解する。 地理的事象のメカニズムや人間との関わりについて関心を持ち、意欲的に課題を追究しようとする。 1、2学期の評価は考査の得点と課題提出点、受講状況、発言をもとに100点法で評価する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

<p>2年生の自然環境や世界各国の産業等の学習をベースに、村落・都市や人口、各国の結びつき等3年生の学習を組み立て、最後は地誌学習で総括する流れになっています。模試等でも2年生の学習が総得点の40%を下ることはありません。2年次に学習した自然環境、産業等の復習をしながら、より新しい知識・話題を吸収できるよう心がけましょう。</p>
--

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
公民	現代社会	普通科	2	2	高等学校 改訂版 現代社会 (第一学習社)	最新現代社会資料集 2022 (第一学習社) 用語集現代社会 (清水書院)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深める。 2 変化の激しい現代社会の諸問題に対して関心を高め、自ら課題を設定して主体的・意欲的に追求し、課題解決的な力を育む。 3 自らの個性を発揮し、考察していく学習を通して、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------------------	--

2 学習計画

学習内容		学習のねらいおよび到達目標
単元	学習項目	
第1編 私たちの生きる社会	地球環境問題 資源エネルギー問題 科学技術の発達と生命倫理 高度情報社会と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に関する課題を設定し、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から課題を追求する学習を通して、現代社会への関心を高め、いかに生きるかを主体的に考えることの大切さについて自覚を深める。
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方	現代に生きる青年 個人の尊重と法の支配 現代の民主政治と政治参加の意義 国際政治の動向と日本の役割 現在の経済社会と私たちの生活 国際経済の動向と日本の役割 現代に生きる倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考え、青年の生き方について自覚を深める。 ・日本国憲法の基本原則を国民生活との関係から理解する。 ・民主政治における個人と国家について考える。 ・国際政治に関する諸問題について理解し、国連などの国際組織の役割と、国際社会における日本の役割について考察する。 ・財政の仕組みや租税の意義、資金の循環と金融機関の働きに関わる政府の役割などについて理解し、それらの課題について考察する。 ・国際経済に関する諸問題について理解し、国家間の相互依存が深まっている現代の国際経済の特質について考察する。 ・人間の尊厳と生命の尊重に関する今日的課題について考える。

3 評価方法

評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野に立って、現代の社会と人間についての基本的な概念を理解できたか。 ・現代社会の諸問題について、主体的に考え公正に判断する力を養うことができたか。
評価の方法	定期考査の成績をもとに、平常の学習態度、レポートや課題の提出状況を加えて総合的に評価する。

4 学習のアドバイス

「現代社会」は、現代の生活と直接結びついた事柄を学習する科目なので、新聞を読んだり、ニュースを聞いたりして、できるだけ学習の対象に幅を持たせてください。また、公民の科目は単なる暗記科目と誤解している人がいますが、この学習を通して広い視野に立ったものの見方や考え方を養い、現在の自分の在り方や生き方を考えましょう。
--

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理歴史	日本史A	農業科学科・海洋科学科 ビジネス科・生活福祉科	2	2	高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)	プロムナード日本史 (浜島書店)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	近現代の日本歴史の具体的展開を、世界史的（アジア的）視野に立ちつつ、国際環境などと関連づけて理解させ、さらに日本の動向を考察させることによって歴史的思考力を培う。また、歴史の具体的な理解を深め、国民としての自覚と国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
第1部 私たちの時代と歴史	・産業革命と東アジア	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア世界の変化の中、日本が開国し、明治維新により近代国家を形成した様子を理解する。 明治政府が行った近代化のための諸改革、これに対して自由民権運動がおこり、憲法制定・国会開設に至った動きを理解する。 西洋文明を手本に文明開化がおこり、人々の生活が近代化した様子を理解する。 東アジアの動向を踏まえつつ、日清・日露戦争のおこった原因と、その結果について理解する。 日清・日露戦争の頃、日本に産業革命がおこり資本主義が確立したことや、それに伴う社会問題の発生を理解する。 政党政治の成立と、その背景であるデモクラシーの風潮について理解する。また、社会変化の中、第一次世界大戦が、日本に与えた経済的な影響について理解する。 第一次大戦後の世界情勢と、日本のアジア諸国への進出の様子を理解する。 経済の発展や教育の普及などにもない、市民文化が形成されたことを理解する。また、社会不安の中で米騒動をはじめとする社会運動が活発化した様子を知る。 慢性的不況と世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し、どのように克服していったのかを理解する。 中国をはじめとするアジア諸国への、日本の軍部の台頭にもなう政治的な状況の変化について理解し、アジア太平洋戦争の概要について理解する。 戦後における民主化への諸改革の内容について理解する。 冷戦のはじまりと、占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約や安全保障条約の締結に至る経緯と背景について理解する。 高度経済成長の実態、日韓・日中関係の変化、また国内産業の特徴や生活の変化について理解する。 高度経済成長の時代の終焉とその変化について理解する。 冷戦の終了及び55年体制の終焉など国内政治の変化について理解する。現在の日本がかかえる課題を考察する。
第2部 近現代の日本と世界	・近代国家の誕生	
第1章 近代国家の形成と国際関係の推移	・近代社会の形成	
(第1節)近代への胎動	・日清戦争と日露戦争	
(第2節)開国と幕末の動乱	・帝国形成期の社会	
(第3節)近代国家の形成	・大正デモクラシー	
(第4節)国際関係の推移と近代産業の発展	・ヴェルサイユ体制とロシア	
第2章 両大戦をめぐる国際情勢	・都市化と市民文化	
(第1節)第一次世界大戦と日本	・東アジアの情勢と恐慌	
(第2節)第二次世界大戦と日本	・十五年戦争 ・太平洋戦争	
第3章 現代の日本と世界	・戦後世界と日本	
(第1節)日本の再出発	・冷戦と日米安保体制	
(第2節)独立後の政治と経済の発展	・高度度経済成長下の日本	
(第3節)現代の日本と世界	・経済大国、政局と経済の混迷 ・これからの日本の課題	

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の流れに関心をもち、時代の特色や因果関係を多面的・多角的に考察し、国際社会の動向を踏まえて判断し、それを表現することはできるか。 定期考査の成績、テーマ学習、学習態度、課題の提出状況を勘案して総合的に評価する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> 日本史の学習で重要なことは、「歴史の流れ」と「因果関係（原因と結果）」を理解することです。時代のポイントとなる歴史事実（用語）を整理しつつ、歴史資料をもとに教科書の事実を考察します。また学期に1度は、テーマ学習を設定し、情報の収集、情報交換、展開の予想など生徒自らが考察し追究する機会があります。
--

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理歴史	地理A	農業科学科 海洋科学科 ビジネス科 生活福祉科	2	2	高等学校 新地理A (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	図説地理資料 世界の諸地域NOW2022 (帝国書院)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
I 世界の諸地域の姿 と地球的課題		
1 地球儀や地図か らとらえる現代 社会	・地球上の位置と国家 ・グローバル化が進む 世界	・球体である世界を平面として捉えた地図の長所・短所を把握するとともに時差を扱う地理的技能を身につける。 ・世界の交通・通信網の発展とその課題を学ぶ。
2 人間生活を取り 巻く環境	・人々の生活と地形 ・人々の生活と気候 ・人々の生活と産業 ・人々の生活と文化	・世界の地形を営力で分類し、成因の考察とともに、災害と恩恵など人との関わりを考察する。 ・世界の気候について、成因を理解し、世界の人々の生活との関係を考察する。
3 世界の諸地域の 生活・文化	・中国・韓国 ・東南～南アジア ・西～中央アジア ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・南北アメリカ ・オセアニア	・主に農業と工業について知るとともに、産業と人々の関わりについて考察する。 ・衣食住等人々の生活は、自然条件や社会条件によって地域的差異がみられることを理解する。 ・それぞれの国の自然、歴史、産業、他国との関わりを取り上げ地誌的に考察する。
4 地球的課題と私 たち	・環境問題 ・資源エネルギー問題 ・人口問題 ・食糧問題 ・都市・居住問題	・世界の環境問題の現状理解とその解決方法や世界各国の取り組みについて理解する。 ・資源エネルギーの需給、環境問題について理解する。 ・世界の人口問題の現状と課題について理解する。 ・世界の食糧問題について考察する。 ・都市問題、居住問題とは何かを考察する。
II 身近な地域の課題		
1 身近にあるさま ざまな地図	・GISのしくみ、技術 ・日本の自然環境	・適切な地図の選択と、地図を使った地域調査で地域の特性を捉える技能を身につける。
2 日本の自然環境 と防災	・日本の自然災害と防 災	・州・大陸を地誌的にとらえる手法を身につけることで、自然や歴史の共通点を学び、地域特性の差異について理解する。
3 身近な地域の課 題と地域調査	・地域調査の方法、発 表	

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	・授業内容の理解度、到達度を定期考査で測り、評価する。 ・GIS等ICTを使用した地理学習について、提出物を通して評価する。 ・ワークブック等自学自習ができていないかを、提出物を通して評価する。
-----------------	---

4 学習のアドバイス

日ごろから、テレビのニュースや新聞の情報によく目を通し、教科書や地図帳、資料集で扱われている内容と照合すること。世界の国々について知ると、自分が抱えている問題も小さく見えることがよくあります。想像力を働かせて、リアルに物事を捉える習慣を地理の学習で身につけましょう。

教科	科目	対象学科	対象学年	単位数	使用教科書	副教材等
地理 歴史	世界史 A	農業科学科 海洋科学科 ビジネス科 生活福祉科	3	2	明解 世界史 A (帝国書院)	アカデミア世界史 (浜島書店) 明解世界史 A ノート (帝国書院)

1 学習の到達目標等

科目の概要 及び 到達目標	「世界史 A」とは、世界の歴史の大きな流れと特質を、近現代史を中心に学習する科目です。世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につけることが目標です。
---------------------	---

2 学習計画

学 習 内 容		学習のねらいおよび到達目標
単 元	学習項目	
1 部 世界の一体化と日本	1 章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり 1 節 東アジアの文明 5 節 ヨーロッパの文明 2 章 一体化に向かう世界 2 節 大航海時代と新たな国家の形成 3 章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1 節 ヨーロッパとアメリカの諸革命 2 節 自由主義・ナショナリズムの進展 4 節 東アジアの大変動	<ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の社会・文化の特質を、風土や生活、言語や思想などの視点から考察し理解する。 ・東アジアおよびヨーロッパを中心に、諸民族の交流の様子を理解する。 ・16 世紀以降の、ヨーロッパ主導による世界の一体化と、それに伴って世界が変わっていく様子を考察し理解する。 ・ルネサンスや宗教改革などの政治・文化の新しい気運について考察し理解する。 ・18 世紀以降、欧米諸国に市民社会が誕生し、国民国家の形成が進行したことを考察し理解する。 ・ウィーン体制下での自由主義や国民主義の高まりが、イギリスなどの諸改革やドイツなどの国民国家形成運動の原動力となったことを理解する。 ・アジア諸国内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によってアジア諸国の社会に引き起こされた変貌をとらえながら、19 世紀の世界一体化とその特質を考察し理解する。
2 部 地球社会と日本	1 章 現代社会の芽生えと世界大戦 1 節 現代につながる社会の形成 2 節 第一次世界大戦がもたらしたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の世界分割をめぐる競合と帝国主義時代の世界の一体化と社会の変容を考察し理解する。 ・社会主義運動や社会主義国家の誕生と出現した意味を、考察し理解する。 ・第一次世界大戦の原因、性格、戦争がもたらした世界の変化をとらえる。 ・戦間期に国際社会の枠組みが大きく変化したことを考察し理解する。 ・世界恐慌に対する諸国の対応策をとらえ、全体主義の台頭が国際秩序に危機をもたらしたことを考察し理解する。

3 評価方法

評価の観点・ 評価の方法	近現代史について、我が国と関連づけながら理解し、その知識を身につけることができたか。また、その知識をもとに人類の課題を多面的・多角的に考察しようとしているかにより評価する。 評価は、定期考査の得点と課題提出点、受講状況、発問をもとに100点法で評価する。
-----------------	--

4 学習のアドバイス

世界史では、日本を含む世界の様々な地域の歴史を幅広く学習します。また、授業で扱う内容は、高校卒業後に一般教養として知っておくべき事柄です。教科書や資料集をよく読み、時代の流れをつかみ、多くの知識を吸収できるように努めましょう。
